

日本地質学会第120年学術大会（2013仙台大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（土） コアタイム 12：30-13：50 C棟ポスター会場

T1. 地質情報の利活用

T1-P-1

シームレス地質図3D及びシームレス地質図KMLの公開と活用. **西岡芳晴**・北尾 馨・長津樹理

T1-P-2

長野県における地学遺産の発掘と活用. **富樫 均**・原山智・大塚 勉

T1-P-3

5万分の1地質図幅のGISデータ試験公開. **川畑大作**・宮崎純一・斎藤英二・牧本 博・亀屋暁人・青木加代子

T1-P-4

産総研地質標本館における地質標本管理と利活用. **角井朝昭**・兼子尚知・坂野靖行・長森英明・利光誠一

T3. 碎屑性ジルコン年代学と日本列島・太平洋型造山帯

T3-P-1

四国西部三波川帯の2000mボーリングコアから得られた地質年代. **木村一成**・西坂直樹・石川慶彦・大野裕記・柳田 誠・鈴木茂之・Ulrich Knittel・李 元希

T3-P-2

碎屑性ジルコン年代学に基づく四万十帯後背地の時空変遷. **木村和美**・早坂康隆・木村光佑・廣瀬浩司

T3-P-3

吉備高原アルカリ玄武岩中の捕獲岩のジルコン年代測定による西南日本下部地殻の発達史の推定. **井形瑛梨**・岩森 光

R1. 深成岩・火山岩とマグマプロセス

R1-P-1

山口県北西部に見出された後期白亜紀長門-豊北グラベンカルデラの活動史. **馬場園 明**・今岡照喜・亀井淳志・八木公史・板谷徹丸

R1-P-2

後期白亜紀イグニブライトの形成機構：山口県中央部, 物見岳層の例. **大中翔平**・今岡照喜

R1-P-3

山口県中央部の後期白亜紀阿武層群と生雲コールドロン. **木村 元**・井川寿之・小室裕明・武田賢治・今岡照喜

R1-P-4

東南極Lützw-Holm Complex, Rundvågshettaに産する苦鉄質岩岩脈の産状と組成. **宮本知治**・角替俊昭・Dunkley Daniel J.・加藤睦実

R1-P-5

複数の熟年代学的手法に基づく江若花崗岩体の冷却史とその地質学的意義. **末岡 茂**・安江健一・丹羽正和・花室孝広・島田耕史・石丸恒存・梅田浩司・檀原 徹・岩野英樹・郷津知太郎

R1-P-6

熊野酸性火成岩類の全岩化学組成と含有鉱物. **角 拓也**・壺井基裕・古川邦之・金丸龍夫

R1-P-7

近畿地方東部阿保花崗岩の全岩化学組成とその成因. **小川ひとみ**・壺井基裕

R1-P-8

東北日本只見川古期花崗岩類の黒雲母K-Ar年代と地球化学的特徴. **谷岡裕大**・上林三四郎・壺井基裕

R1-P-9

生駒山地における白亜紀領家苦鉄質複合岩体のマグマプロセス. **小泉奈緒子**・奥平敬元・小川大介

R1-P-10

朝日山地における後期ジュラ紀～前期白亜紀火成活動：朝日帯・足尾帯の時空変遷と中下部地殻の推定. **加々島慎一**・高橋俊郎・平原由香・仙田量子・常 青・宮崎隆・木村純一

R1-P-11

オマーンオフィオライト北部・サラヒ岩体最南部地域のマントルセクションにおける鉱物組成の広域的分布から推定されるメルト流動の多様性. **藤井 悟**・高澤栄一

R1-P-12

オマーンオフィオライト北部に分布する超苦鉄質ブロックの岩石学的特徴：オフィオライト形成史の新知見. **金子 龍**・足立佳子・宮下純夫

R1-P-13

オマーンオフィオライトフォリエイテッド斑レイ岩の成因. **及川真宏**・足立佳子・野川 裕・豊島剛志・宮下純夫

R1-P-14

マリアナ海溝南チャモロ蛇紋岩海山かんらん岩のファブリックと化学組成の特徴. **近藤洋裕**・藤井彩乃・道林克禎・石井輝秋・Fryer Patricia・前川寛和

R1-P-15

レント王国キンバーライトカンラン岩捕獲岩の構造岩石学的特徴. **梅垣俊哉**・道林克禎・片山郁夫・小宮 剛

R1-P-16

岡山県有漢-賀陽深成複合岩体のジルコン結晶形態. **土屋裕太**・能美洋介・西戸裕嗣・鹿山雅裕

R1-P-17

土岐花崗岩体内のジルコンU-Pb年代の空間分布：貫入・定置過程とその後の冷却過程の関連. **湯口貴史**・岩野英樹・服部健太郎・坂田周平・末岡 茂・檀原 徹・平田岳史・石橋正祐紀・國丸貴紀・西山忠男

R1-P-18

鹿児島県大隅半島南部の花こう岩類に含まれるジルコン結晶形態について. **池田咲子**・能美洋介

R1-P-19

LA-ICP-MSによるジルコンのU-Th-Pb年代測定-第四紀試料を対象としたU-Pb, U-Th同時年代測定の試み-. **伊藤久敏**

R4. 変成岩とテクトニクス

R4-P-1

堆積岩中の炭質物の石墨化におけるタイムスケール-接触変成作用と熱モデリングによる証拠-. **森 なつみ**・ウォリスサイモン・森 宏

R4-P-2

P-T estimation and monazite EPMA dating of metamorphic rocks from the Hanhohiyun Mountains area, western part of Tuva-Mongolian Massif. **足立達朗**・小山内康人・中野伸彦・大和田正明・サティッシュクマール マドスーダン・Jargalan Sereenen・Boldbaat Chimedtseye・米村和紘・吉本 紘

R4-P-3

九州西部天草高浜変成岩類上部ユニットのマイロナイトの内部構造. **池田 剛**・宮崎一博

R4-P-4

ポロシリオフィオライトの変成プロセスと日高変成帯の熱史とテクトニクスとの関連. **田中真二**・宮下純夫

R4-P-5

蛇紋岩化作用進行度の空間分布と物質移動. **岡本 敦**・大柳良介・清水浩之・土屋範芳

R4-P-6

サンアンドレアス断層直上Redwood蛇紋岩岩体の反応過程. **宇野正起**・カービー ステファン

R4-P-7

グラニュライト岩体にみられる塩水の浸透による高温交代作用：南アフリカリンボポ岩体の例. **角替敏昭**・van Reenen Dirk D.

R4-P-8

部分溶融および高温流体活動に対するジルコンとモナズ石の応答の違い. **河上哲生**

R5. 地域地質・地域層序

R5-P-1

日高舟状海盆縁辺の後期新生代の地質構造. **辻野 匠**・佐藤智之

R5-P-2

5万分の1地質図幅「青森西部」地域の地質. **長森英明**・宝田晋治・吾妻 崇

R5-P-3

割山隆起帯の後期石炭紀花崗岩・白亜紀花崗岩の関係. **大友幸子**・阿部真里恵・土谷信高・武田朋代・佐々木 惇

R5-P-4

山形県酒田市周辺出羽山地における日本海拡大時の背弧火山活動の復元. **細井 淳**・天野一男

R5-P-5

常磐堆積盆における新生界の堆積史復元-古第三系白水層群石城層に注目して-. **武田 翔**・安藤寿男

R5-P-6

棚倉断層沿いに発達するストライクスリップ堆積盆（矢祭堆積盆）における新第三紀堆積環境変遷. **澤畑優理恵**・天野一男

R5-P-7

日立カンブリア系玉簾層の再定義. **田切美智雄**

R5-P-8

関東山地東部, 秩父市浦山地域の秩父累帯（その2）. **加藤 潔**・安井万奈・山崎淳司

R5-P-9

※講演番号は、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）、アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに、ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。太字は、代表発表者です。※★印はハイライトです。本誌 p. (11) 参照。

日本地質学会第120年学術大会（2013仙台大会）講演プログラム（ポスター）

■ 9月14日（土） コアタイム 12:30-13:50 C棟ポスター会場

関東平野中央部「鴻巣」地域の地下に分布する下総層群の層相と層序。 **納谷友規**

R5-P-10

三浦半島北部の逗子層より産出した放射虫化石層序とRN9亜帯年代の提唱。 **鈴木 進**・蟹江康光

R5-P-11

長野県南部に分布する中新統富草層群の磁気層序。 **酒向和希**・星 博幸

R5-P-12

糸魚川-静岡構造線活断層系に変異を与えるみどり湖断層。 **安藤佳凜**・千葉春菜・大塚 勉

R5-P-13

伊那市高遠町板山の中央構造線東方の泥岩と花崗岩。 **小野 晃**

R5-P-14

京都府北部、由良川下流域における加久藤テフラ（Kkt）の発見とその意義。 **小滝篤夫**

R5-P-15

「京都東南部」地域のメランジュ。 **脇田浩二**

R5-P-16

山陰海岸ジオパーク但馬御火浦における中新世火山砕屑岩類の産状と形成過程。 **松原典孝**・先山 徹

R5-P-17

兵庫県赤穂市周辺、後期白亜紀火成岩類の地質と構造。 **佐藤大介**・山元孝広

R5-P-18

大阪堆積盆地北部の表層地質から推定した地下構造。 **櫻井皆生**

R5-P-19

紀伊半島北西部における微小地震クラスターの分布に対する地質構造との関係。 **前田純侖**・遠田晋次・片尾 浩

R5-P-20

和歌山県日高川流域の四万十帯上部白亜系、美山層の放射虫化石群集。 **山本俊哉**

R5-P-21

鳥取県西部江尾花崗岩と熊塔の花崗閃緑岩のジルコンLA-ICP-MS U-Pb・フィッシュトラック年代。 **松浦浩久**・平田岳史・檀原 徹・岩野英樹

R5-P-22

岡山県西部に分布する三疊系成羽層群地頭層から読み取れる三疊紀後期の海進。 **鈴木茂之**・中村亮太・湯川弘一

R5-P-23

四国西部三波川帯の深度2000mまでの地質学的性状。 **大西耕造**・石川慶彦・西坂直樹・大野裕記・木村一成・田村栄治・鏡 顕正・鈴木茂之

R5-P-24

熊本県八代山地の日奈久帯に分布する下部白亜系“先外和泉層群”の分布と層相。 **三宅由洋**・赤星征典・島田駿祐・高橋 努・田中 均

R5-P-25

石灰質ナンノ化石からみた多良間島に分布する多良間砂層の地

質年代。 **今井 遼**・大関 萌・井龍康文

R5-P-26

ASTERデータを用いたチベット地域ヤルツァンボ縫合帯中部区域におけるオフィオライトマッピング。 **二宮芳樹**・付 碧宏

R5-P-27

タイ王国におけるNan-Uttaradit Suture ZoneとSa Kaeo-Chanthaburi Suture Zoneの地質学的対比。 **鎌田祥仁**・上野勝美・原 英俊・Sardsud Apsorn・Charoentitirat Thasinee・Charusiri Panya・久田健一郎

R10. 炭酸塩岩の起源と地球環境

R10-P-1

揚子地塊の最下部トリアス系に特徴的な微生物岩の組織と構造－ペルム紀末の生物大量絶滅後の地球微生物環境－。 **石井一史**・江崎洋一・刘 建波・足立奈津子

R15. テクトニクス

R15-P-1

ガス圧試験機を用いた岩石の弾性波速度測定における封圧の影響。 **玉井速汰**・武藤 潤・長濱裕幸・石川正弘

R15-P-2

断層破砕物質における剪断センス決定のための力学試験。 **亀高正男**・中山一彦・青木和弘・瀬下和芳・島田耕史・田中義浩・岡崎和彦・船戸明雄・林 俊夫

R15-P-3

断層形成における微小な変形挙動の検討。 **堂垂達也**・山田泰広・松岡俊文

R15-P-4

3次元地質モデリングによる小断層の成因推定。 **佐藤活志**

R15-P-5

外房地域に発達する南北系断層の起源：東京大学千葉演習林の地質構造。 **山中克正**・平田郁生・佐藤活志・山路 敦・徳橋 秀一

R15-P-6

雫石盆地西縁断層帯の浅部地殻構造。 **越谷 信**・谷川 匠・照井匡子・佐藤比呂志・加藤直子・阿部 進・東中基倫

R15-P-7

富士川河口断層帯～糸魚川-静岡構造線横断地下構造探査（2012FIST）報告－その3：沼久保断層ならびに大宮断層による撓曲構造。 **小田原 啓**・狩野謙一・伊藤谷生

R15-P-8

伊豆小笠原弧北部の地殻構成。 **石川正弘**・芥川靖之・勝根郷・堤 大輔

R15-P-9

伊豆中軸部の丹那－平山構造線周辺における100万年前以降の塑性的な左横ずれ変形。 **木村治夫**

R15-P-10

堆積盆反転にみる中部日本の比較ネオテクトニクス論。 **竹内 章**

R15-P-11

GPS観測データから見た信越地域の地殻変動と地体構造。 **今井雄輝**・竹内 章

R15-P-12

中部地方嶺家花崗岩中に発達するヒールドマイクロクラックによる新岩脈法を用いた古応力状態の復元。 **金井拓人**・高木秀雄・山路 敦

R15-P-13

日本列島先上部白亜系の砕屑性ジルコン年代分布。 **大藤 茂**・大川泰幸・森田祥子・横川実和・川越雄太・原田拓也・森 紀道・小原北士・高地吉一・青山正嗣・下條将徳・折橋裕二・山本鋼志

R18. 情報地質

R18-P-1

露頭柱状図を用いた房総半島北部の3次元地質モデリング。 **野々垣 進**・中里裕臣・中澤 努

R18-P-2

地層名検索データベースの移行。 **巖谷敏光**・斎藤 眞・鹿野和彦・西岡芳晴・内藤一樹・宝田晋治

R18-P-3

沿岸域地質情報統合における空間情報の作成手法。 **井川敏恵**・川畑大作・尾崎正紀・加藤 敏

R18-P-4

地質学分野の研究におけるGMTの有用性。 **棟上俊二**

R18-P-5

空中写真から作成した数値表層モデルの3Dプリンティング。 **根本達也**・升本真二

R18-P-6

変動係数による組成データ内の不変成分の特定とその検証。 **下垣友佑**・太田 亨

R18-P-7

瀬戸内海島しょ部の花こう岩類に含まれるジルコン結晶形の数値記載。 **能美洋介**・津江智美・小野麻実

※講演番号は、トピックセッション（T）、レギュラーセッション（R）、アウトリーチセッション（OR）のそれぞれに、ポスター（P）の記号と各セッション内での通し番号を付与しています。 ※講演要旨とプログラムとで発表題目や著者氏名が異なっている場合、講演要旨を正しいものとします。太字は、代表発表者です。 ※★印はハイライトです。本誌 p. (11) 参照。